

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	論理国語	3	2	クラス単位

使用教科書	副教材等
新編 論理国語 (大修館書店)	常用漢字ダブルクリア四訂版 (尚文出版) 新改訂最新国語便覧 (浜島書店)

<p>科目の目標</p> <p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
② 思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。

<p>評価方法</p> <p>評価の観点3項目で評価し、総合的に評価する。 具体的には、授業への準備状況、授業での発言・聞く態度、授業での書く・読む態度、授業課題・週課題・長期休業中の課題等の提出状況、自己評価、相互評価、定期考査における論述、小テストの状況などが評価の観点である。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	論理と出会う	「知の登山、知の水路」	「学ぶ」ことについての筆者の考えを読み取る。これからの学習で取り組みたいこと、興味のあることについて考える。	○	◎	○
		「『論理的な人』とはどういう人か」	「論理」についての筆者の考えを読み取る。筆者の主張をふまえ、これからの学習に興味を持つ。	◎	○	○
5	【フォーカス】「論理」への第一歩	【フォーカス】「論理」への第一歩	論理的に考える姿勢を身につけ、論理がなぜ必要なのかを理解する。	○	◎	○
		「記号的メディアと物理的メディア」	具体例の働きを的確にとらえ、具体と抽象の関係についての理解を深める。文章の構成や展開の仕方に注目しながら、筆者の主張を読み取る。	◎	○	○
6	具体と抽象	【フォーカス】具体と抽象を使いこなそう	具体と抽象の関係について、理解を深める。内容を具体化してわかりやすくしたり、抽象化してまとめる。	○	◎	○
		「対話の精神」	対比の関係を意識しながら読み、論理の展開を的確にとらえる。文章の構成や展開の仕方に注目しながら、筆者の主張を読み取る。	◎	○	○
7	対比をとらえる	【フォーカス】対比を使って主張する	効果的な対比の用い方について、理解を深める。主張を支えるための対比の用い方を考える。	○	◎	○
		「人工の自然—科学技術時代の今を生きるため」	主張と根拠の関係を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。	◎	○	○
9	主張をつかむ	根拠をふまえて主張を書く	根拠を明示しながら論理的に主張を書く。接続表現を適切に使って、論理的な文章を書く。	○	◎	○
		構成を考えて書こう	基本的な小論文の型を理解する。	◎	○	○
10	—小論文①	反論を想定して書こう	反論を想定し、説得力のある小論文を書く。	○	◎	○
		文章を磨き上げよう	推敲の観点を知り、文章を改善する。	○	◎	○
		「若者の『海外旅行離れ』は本当か」	文章と統計資料の関係を的確に読み取る。データのまとめ方によって、主張が変わることを理解する。	◎	○	○
11	統計資料を活用する	「紙の本はなくならない」	異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。	◎	○	○
		「情報化と紙の本のゆくえ」	異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。	◎	○	○
12	比べて読む	【フォーカス】比べて読もう	二つの文章を比べて読み、自分の考えを持つ。	○	◎	○
		1	テーマを決め、問いを立てよう	具体的なレポートのテーマを決め、問いを立てる。	○	◎
1	レポートを書く	情報を収集しよう	適切な調査方法を選び、レポートに必要な情報を集める。	◎	○	○
		情報を整理しよう	集めた情報をレポートで使えるように整理・分類する。	◎	○	○
		レポートをまとめよう	読者を意識し、構成や記述に配慮しながら、読みやすくわかりやすいレポートを書く。	○	◎	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	古典探究	2	2	2年次人文社会系列

使用教科書	副教材等
「古典探究 古文編 漢文編」大修館書店	最新国語便覧 改訂新版（浜島書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） 入試に出る古文単語300（旺文社） 古典文法クリアノート（尚文出版）

<p>科目の目標</p> <p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。
② 思考・判断・表現	古典を学ぶことをとおして、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	上代から現代に至る多様な言語文化の中から適切な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点3項目で評価し、総合的に評価する。 ・具体的には、授業への準備状況、授業での発言・聞く態度、授業での書く・読む態度、課題の提出状況、自己評価、相互評価、定期考査における論述、小テストの状況などが評価の観点である。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	説話	『今昔物語集』 「安倍晴明」	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえることができる。 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができる。	○		
5	故事・逸話	「画竜点睛」 「漱石枕流」	故事成語の内容や文化的背景に興味をもることができる。		○	
	随筆（一）	『徒然草』 「今日はそのことをなさんと思へど」	時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。		○	
6	物語（一）	『伊勢物語』 「初冠」	作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解することができる。 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読むことができる。	○		
7	漢詩一近体詩	「登岳陽楼」 「秋浦歌」	漢詩の言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解することができる。 詩の構成や内容を解釈することができる。	○		
9	随筆（二）	『枕草子』 「中納言参りたまひて」	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 宮中での生活について理解することができる。	○		
10	史伝一『史記』本紀	「項王の最期」	文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 作品の登場人物の心情や内容を理解することができる。 時代背景や登場人物に興味をもち、各陣営の戦略や、人物の心情・行動を読みとることができる。	○		○
11	物語（二）	『源氏物語』 「光源氏の誕生」 桐壺の更衣	文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解できる。	○		○
12			古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 物語の内容や作品の背景、登場人物の思いをとらえることができる。		○	○
1	日記	『更級日記』 「門出」	作品の成立した背景やその内容の解釈を深めることができる。 作品に描かれた古人の旅について読み味わうことを通して、当時のならわしや旅について書かれた日記の意義について考えることができる。		○	○
2	思想	「不忍人之心」	文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。	○		
3	文章	「桃花源記」	孟子の思想について、構成や展開などを捉えることができる。 日本文化と中国など外国の文化との関係について理解することができる。 作品の成立した背景を踏まえながら内容の解釈を深め、考察することができる。	○		○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	古典探究	2	2	自由選択A群

使用教科書	副教材等
「古典探究 古文編 漢文編」大修館書店	最新国語便覧 改訂新版（浜島書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） 入試に出る古文単語300（旺文社） 古典文法クリアノート（尚文出版）

<p>科目の目標</p> <p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。
② 思考・判断・表現	古典を学ぶことをとおして、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	上代から現代に至る多様な言語文化の中から適切な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。

評価方法
<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点3項目で評価し、総合的に評価する。 ・具体的には、授業への準備状況、授業での発言・聞く態度、授業での書く・読む態度、課題の提出状況、自己評価、相互評価、定期考査における論述、小テストの状況などが評価の観点である。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	説話	『今昔物語集』 「安倍晴明」	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえることができる。 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができる。	○	○	○
5	故事・逸話 随筆（一）	「画竜点睛」 「漱石枕流」 『徒然草』 「今日はそのことをなさんと思へど」	故事成語の内容や文化的背景に興味をもることができる。 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。		○	○
6	物語（一）	『伊勢物語』 「初冠」	作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解することができる。 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読むことができる。	○	○	
7	漢詩一近体詩	「登岳陽樓」 「秋浦歌」	漢詩の言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解することができる。 詩の構成や内容を解釈することができる。	○	○	
9	随筆（二）	『枕草子』 「中納言参りたまひて」	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 宮中での生活について理解することができる。	○		○
10	史伝一『史記』本紀	「項王の最期」	文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 作品の登場人物の心情や内容を理解することができる。 時代背景や登場人物に興味をもち、各陣営の戦略や、人物の心情・行動を読みとることができる。	○	○	○
11	物語（二）	『源氏物語』 「光源氏の誕生」 桐壺の更衣	文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解できる。 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。 物語の内容や作品の背景、登場人物の思いをとらえることができる。	○	○	○
12						
1	日記	『更級日記』 「門出」	作品の成立した背景やその内容の解釈を深めることができる。 作品に描かれた古人の旅について読み味わうことを通して、当時のならわしや旅について書かれた日記の意義について考えることができる。		○	○
2	思想	「不忍人之心」	文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 孟子の思想について、構成や展開などを捉えることができる。	○	○	
3	文章	「桃花源記」	日本文化と中国など外国の文化との関係について理解することができる。 作品の成立した背景を踏まえながら内容の解釈を深め、考察することができる。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	論理国語	2	3	クラス単位

使用教科書	副教材等
新編 論理国語 (大修館書店)	常用漢字ダブルクリア四訂版 (尚文出版) 最新国語便覧 (浜島書店)

<p>科目の目標</p> <p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
② 思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。

<p>評価方法</p> <p>評価の観点3項目で評価し、総合的に評価する。 具体的には、授業への準備状況、授業での発言・聞く態度、授業での書く・読む態度、授業課題・週課題・長期休業中の課題等の提出状況、自己評価、相互評価、定期考査における論述、小テストの状況などが評価の観点である。</p>

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	自己を見つめて	「探究する力」	筆者の問題意識をとらえ、主張を読み取る。読み取ったことをふまえて、自分の将来について考えを深める。	◎	○	○
		「補助線を引きながら考える」	筆者の問題意識をとらえ主張を読み取る。読み取ったことをふまえて、自分の思いや考えを深める。	○	◎	○
5	【フォーカス】自分を客観的に見つめよう	【フォーカス】自分を客観的に見つめよう	自分自身を客観視し、認識を深める。必要な情報を集め、整理し、わかりやすくまとめる。	○	◎	○
		「ミロのヴィーナス」	筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味する。論理の展開や比喩的な表現の意図をとらえる。	◎	○	○
6	思考を深める	【フォーカス】根拠を吟味しよう	根拠を吟味し、主張の正しさや説得力を批判的に検討する。	○	◎	○
		志望先への提出書類	進路で必要とされる書類についての概要を知り、それぞれの目的をつかむ。	◎	○	○
7	社会に向かって	志望理由書を書こう	必要な情報を集め、それらを適切に結びつけて、相手の印象に残る志望理由書を書く。	◎	○	○
		自己推薦書を書こう	自分を客観的に見つめ、材料を膨らませて、説得力のある自己推薦書を書く。	○	◎	○
		「ロボットに心はあるか」	複数の文章を比較・分析しながら読み、考えを深める。具体例と主張の関係をとらえ、自分の意見をもつ。	◎	○	○
9	視点を変えて	「クオリアと心」	複数の文章を比較・分析しながら読み、考えを深める。独特の概念や筆者の主張を的確にとらえ、自分の考えをもつ。	○	◎	○
		【フォーカス】複数の文章を比較し、分析しよう	特定のテーマについて複数の文章を比較・分析し、考えを深める。複数の文章を読んで考えたことを、論点を明確にして書く。	○	◎	○
11	現代を考える	「政治の本質」	筆者の主張をふまえて、現代社会についての考えを深める。発想のしかたや論理の展開に注意して、筆者の主張を読み取る。	◎	○	○
		「『である』ことと『する』こと」	筆者の主張をふまえて、現代社会についての考えを深める。対比の役割を意識して本文を読み、筆者の主張を的確につかむ。	○	◎	○
12	【フォーカス】話し合っ て考えを深めよう	【フォーカス】話し合っ て考えを深めよう	文章を読み、多様な視点からとらえ直すことで、考えを深める。関心を持ったテーマに関する文章や資料を読み、自分の考えや解釈を深めて、意見文にまとめる。	○	◎	○
		1 未来に目を向けて	「未来の地図帳」	日本社会や世界が抱える課題に関心を持ち、考えを広げたり深めたりする。本文中の数値や地図を的確に読み取り、筆者の主張をつかむ。	◎	○
		「豊かさのつながり」	日本社会や世界が抱える課題に関心を持ち、考えを広げたり深めたりする。論理の展開に中止して筆者の主張を的確につかみ、自分の考えをもつ。	○	◎	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	古典探究	3	3	人文社会系列

使用教科書	副教材等
「古典探究 古文編 漢文編」大修館書店	最新国語便覧 改訂新版（浜島書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） 入試に出る古文単語300（旺文社） 古典文法クリアノート（尚文出版）

科目の目標
国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。
② 思考・判断・表現	古典を学ぶことをとおして、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	上代から現代に至る多様な言語文化の中から適切な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をとおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。

評価方法
・評価の観点3項目で評価し、総合的に評価する。 ・具体的には、授業への準備状況、授業での発言・聞く態度、授業での書く・読む態度、授業課題・週課題・長期休業中の課題等の提出状況、自己評価、相互評価、定期考査における論述、小テストの状況などが評価の観点である。

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	随筆	『枕草子』「二月つごもりごろ」	文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えることができる。 自然の情景に対する作者の感覚や、作者の人物像を捉えることができる。 訓読のきまりや書き下し文などの漢文特有の表現などについて理解できる。 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げることができる。 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら、内容の解釈をすることができる。 時代背景や登場人物に興味をもち、人物の心情・行動を読み取ることができる。 我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解することができる。 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができる。 訓読のきまりや書き下し文などの漢文特有の表現などについて理解することができる。 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができる。 思想の生まれた時代背景や内容を理解することができる。	○		○
5	故事・逸話	「水魚の交わり」		○		
6	史伝—『史記』列伝（司馬遷）	「廉頗・藺相如（刎頸の交はり）」		○		
	物語（一）	『大鏡』「鶯宿梅」		○		
7	思想	「子路問君子」（論語） 「夢為胡蝶」（莊子）		○		
9	文章 日記	「春夜宴桃李園 序」 『蜻蛉日記』「町の小路の女」 『紫式部日記』「和泉式部と清少納言」		○		
10	物語（二）	『源氏物語』		○		
11	長恨歌と日本の文学	『長恨歌』 『源氏物語』「翼をならべ、枝をかさはむ」 『更級日記』「七月七」 『枕草子』「梨花一枝」 『俊賴髓脳』「楊貴妃のことを詠める」	○			
12	物語（三）	『雨月物語』「浅茅が宿」	○			
1	小説	『人虎伝』	文章の構成や展開の仕方について理解できる。 古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。	○		

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	国語表現	2	3	人文社会・自然科学系列

使用教科書	副教材等
国語表現（大修館書店）	国語表現基礎練習ノート（大修館書店）

<p>科目の目標</p> <p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
② 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができるようにするとともに、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

<p>評価方法</p> <p>評価の観点3項目で評価し、総合的に評価する。 具体的には、授業への準備状況、授業での発言・聞く態度、授業での書く・読む態度、授業課題の課題等の提出状況、自己評価、相互評価、定期考査における論述、課題内容の状況などが評価の観点である。</p>
--

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	言葉と出会う 伝える、伝え合う		表記の決まりを意識し、正しく書いている。	○		
			敬語について正しい理解をもち、その使い分けについて理解している。	○		
			長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解している。		○	
			自己紹介のやりとりをとおして相互理解を図っている。		○	
			コミュニケーションの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組む姿勢をもっている。			○
			図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解している。		○	
5	小論文・レポート入門		小論文の基本的な書き方を理解し、意見を筋道を立てて書いている。		○	
			文章の要旨をつかむための方法を理解している。		○	
			テーマをもとに発想を広げて小論文を書いている。			○
6	自己PRと面接		経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考えている。	○		
			自分の特徴を端的に表現し、印象に残る自己PRの原稿を書いている。			○
7			就きたい職業について調べたことをふまえて、「将来の自分」について文章にまとめている。		○	
			調べたこと、やりたいこと、自己PRの三つを結びつけて、説得力のある志望理由を書いている。			○
9	自己PRと面接		適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをしている。	○		
			面接の際の適切な言葉遣いや応答のしかたを考えている。		○	
10	メディアを駆使する		さまざまな通信文の形式を理解している。	○		
			相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書いている。			○
			初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解している。		○	
11	言葉で遊ぶ		相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解している。		○	
			さまざまな言葉遊びをとおして、言葉に興味をもち、語彙を広げて、言語感覚を豊かにしようとしている。			○
12	エッセイを書こう		読み手を楽しませるよう、優れたエッセイを参考にしながら、適切な題材を決め文章の構成や展開を工夫して書いている。		○	
			読み手に自分の思いや考えが効果的に伝わるように書いている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	文学国語	2	3	自由選択C群

使用教科書	副教材等
新編 文学国語 (大修館書店)	新訂版 最新国語便覧 (浜島書店)

科目の目標 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する知識を深めることができるようにする。 ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
② 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

評価方法 評価の観点3項目で評価し、総合的に評価する。 具体的には、授業への準備状況、授業での発言・聞く態度、授業での書く・読む態度、授業課題・週課題・長期休業中の課題等の提出状況、自己評価、相互評価、定期考査における論述、小テストの状況などが評価の観点である。
--

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	明日をひらく	少なくとも最後まで歩かなかった	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。	○		
			「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。		○	
5	古典の世界1	兎の飴食ひたること	筆者の考え方や比較しながら、自分の生き方について考えを深めようとしている。			○
			文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	○		
6	小説を楽しむ	ナイン	「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。		○	
			作品に興味をもち、登場人物の言動や話のおもしろさを読み取ろうとしている。			○
7	小説を楽しむ	ナイン	情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することをおして、内容を解釈している。		○	
9	名作を読む	山月記	文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	○		
			「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。		○	
10	詩を味わう	小景異情 永訣の朝	作品に興味をもち、小説の文体や登場人物の心情について理解を深めようとしている。			○
			文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。	○		
11	古典の世界4	若紫	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえて、解釈の多様性について考察している。		○	
			詩を読むことに興味をもち、その形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わおうとしている。			○
12	小説を楽しむ	待合室	文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	○		
			「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。		○	
1	小説を楽しむ (二)	待合室	作品に興味をもち、登場人物の設定や描写のしかたをとらえようとしている。			○
			情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
1	小説を楽しむ (二)	待合室	「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することをおして、内容を解釈している。		○	
			作品に興味をもち、登場人物の視点や表現の特色に注目しながら内容を読み取ろうとしている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	古典探究演習	2	3	自由選択F群

使用教科書	副教材等
「古典探究 古文編 漢文編」大修館書店	「読み解く古文1」(浜島書店) 「L.T漢文必修」(浜島書店) 最新国語便覧 改訂新版(浜島書店)

科目の目標
古文・漢文の基礎的な演習を通して、国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	古典を学ぶことをとおして、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。
② 思考・判断・表現	古典を学ぶことをとおして、先人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、自分の思いや考えを広めたり、深めたりすることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	上代から現代に至る多様な言語文化の中から適切な話題・題材を提示して生徒の興味・関心を喚起し、言語活動をおして生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。

評価方法
・評価の観点3項目で評価し、総合的に評価する。 ・具体的には、授業への準備状況、授業での発言・聞く態度、授業での書く・読む態度、授業課題等の提出状況、自己評価、相互評価、定期考査における論述などが評価の観点である。

学習計画				評価の観点		
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	①	②	③
4	仮名草子 漢文の基本 再読文字	「醒睡笑」「伊曾保物語」 「呂氏春秋」 「世俗新語」	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 時代背景や登場人物に興味をもち、その内容や作品に込められた作者の意図を理解しようとするすることができる。	○		○
5	説話 再読文字 否定	「古今著聞集」「十訓抄」 「論語」 「老子」「荀子」	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 作品の登場人物の心情や内容を理解することができる。 時代背景や登場人物に興味をもち、その内容や作品に込められた作者の意図を理解しようとするすることができる。	○	○	○
6	紀行 物語 使役	「奥の細道」 「堤中納言物語」 「礼記」「歴代名画記」	書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができる。 作品に興味をもち、物語の内容や作品の背景、登場人物の思いをとらえようとするすることができる。 文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。		○	○
7	物語	「竹取物語」	作品に興味をもち、物語の内容や作品の背景、登場人物の思いをとらえようとするすることができる。		○	
9	説話 軍記物語 説話 受身 疑問	「沙石集」 「平家物語」 「古本説話集」 「韓非子」「十八史略」 「説苑」「韓非子」	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができる。 作品に興味をもち、物語の内容や作品の背景、登場人物の思いをとらえようとするすることができる。 文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 作品の登場人物の心情や内容を理解することができる。	○	○	○
10	説話 随筆 物語 反語	「今物語」 「徒然草」 「竹取物語」 「続玄怪録」「晏子春秋」	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができる。 作品に興味をもち、物語の内容や作品の背景、登場人物の思いをとらえようとするすることができる。 時代背景や登場人物に興味をもち、その内容や作品に込められた作者の意図を理解しようとするすることができる。	○	○	○
11	歌物語 説話 漢詩 比較・選択	「伊勢物語」 「宇治拾遺物語」 李白、無名氏 「史記」	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 作品に興味をもち、物語の内容や作品の背景、登場人物の思いをとらえようとするすることができる。 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができる。 文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 作品の登場人物の心情や内容を理解することができる。	○	○	○
12	説話 1 軍記物語 随筆 仮定・抑揚、累加 限定・詠嘆	「十訓抄」 「平家物語」 「徒然草」 「古文真宝」 「史記」	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解することができる。 作品に興味をもち、物語の内容や作品の背景、登場人物の思いをとらえようとする。 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができる。 作品に興味をもち、物語の内容や作品の背景、登場人物の思いをとらえようとする。 時代背景や登場人物に興味をもち、その内容や作品に込められた作者の意図を理解しようとする。	○	○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	国語表現	2	3	人文社会・自然科学系列

使用教科書	副教材等
国語表現（大修館書店）	国語表現（基礎練習ノート）

<p>科目の目標</p> <p>国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
② 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域において、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができるようにするとともに、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

<p>評価方法</p> <p>評価の観点3項目で評価し、総合的に評価する。 具体的には、授業への準備状況、授業での発言・聞く態度、授業での書く・読む態度、授業課題の課題等の提出状況、自己評価、相互評価、定期考査における論述、課題内容の状況などが評価の観点である。</p>
--

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	書いて伝える 伝える、伝え合う		表記の決まりを意識し、正しく書いている。	○		
			敬語について正しい理解をもち、その使い分けについて理解している。	○		
			長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解している。		○	
			自己紹介のやりとりをとおして相互理解を図っている。		○	
			コミュニケーションの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組む姿勢をもっている。			○
			図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解している。		○	
5	小論文・レポート入門		小論文の基本的な書き方を理解し、意見を筋道を立てて書いている。		○	
			文章の要旨をつかむための方法を理解している。		○	
			テーマをもとに発想を広げて小論文を書いている。			○
6	自己PRと面接		経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考えている。	○		
			自分の特徴を端的に表現し、印象に残る自己PRの原稿を書いている。			○
7			就きたい職業について調べたことをふまえて、「将来の自分」について文章にまとめている。		○	
			調べたこと、やりたいこと、自己PRの三つを結びつけて、説得力のある志望理由を書いている。			○
9	自己PRと面接		適切な言葉遣いや態度で面接の受け答えをしている。	○		
			面接の際の適切な言葉遣いや応答のしかたを考えている。		○	
10	メディアを駆使する		さまざまな通信文の形式を理解している。	○		
			相手や目的に応じて適切な形式を選び、通信文を書いている。			○
			初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解している。		○	
11	言葉で遊ぶ		相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解している。		○	
			さまざまな言葉遊びをとおして、言葉に興味をもち、語彙を広げて、言語感覚を豊かにしようとしている。			○
12	エッセイを書こう		読者を意識し、優れたエッセイを参考にしながら、適切な題材を決め文章の構成や展開を工夫して書いている。		○	
			読者に自分の思いや考えが効果的に伝わるように書いている。			○